

キャピタル世界株式ファンドN.F / キャピタル世界株式ファンドN.F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

受賞情報

キャピタル・インターナショナル株式会社

2年連続受賞

モーニングスター
運用会社アワード受賞

受賞年：2024年、2025年／受賞国：日本

Awards
2025

キャピタル・インターナショナル株式会社は、米国モーニングスター社が最も優れた運用会社を表彰するモーニングスター運用会社アワードを受賞しました。昨年に続き2年連続での受賞となります。

同アワードは、米国モーニングスター社がリスク調整後のリターンにおいて好成績を収めたファンドのラインアップを有するとともに、投資家の利益を最優先に、毅然とした運用姿勢を示した運用会社を表彰するものです。運用会社とファンドへ投資する投資家の利益を一致させ、投資家の資産を自社のものであるかのように大切に運用し、スチュワードシップの文化を持ち、投資家を第一に考える運用会社が受賞企業の対象として選定されます。

©2026 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstar および/またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複写または配布は禁止されており、また(3)正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4)投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstar およびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。



キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

キャピタル世界株式ファンドN F

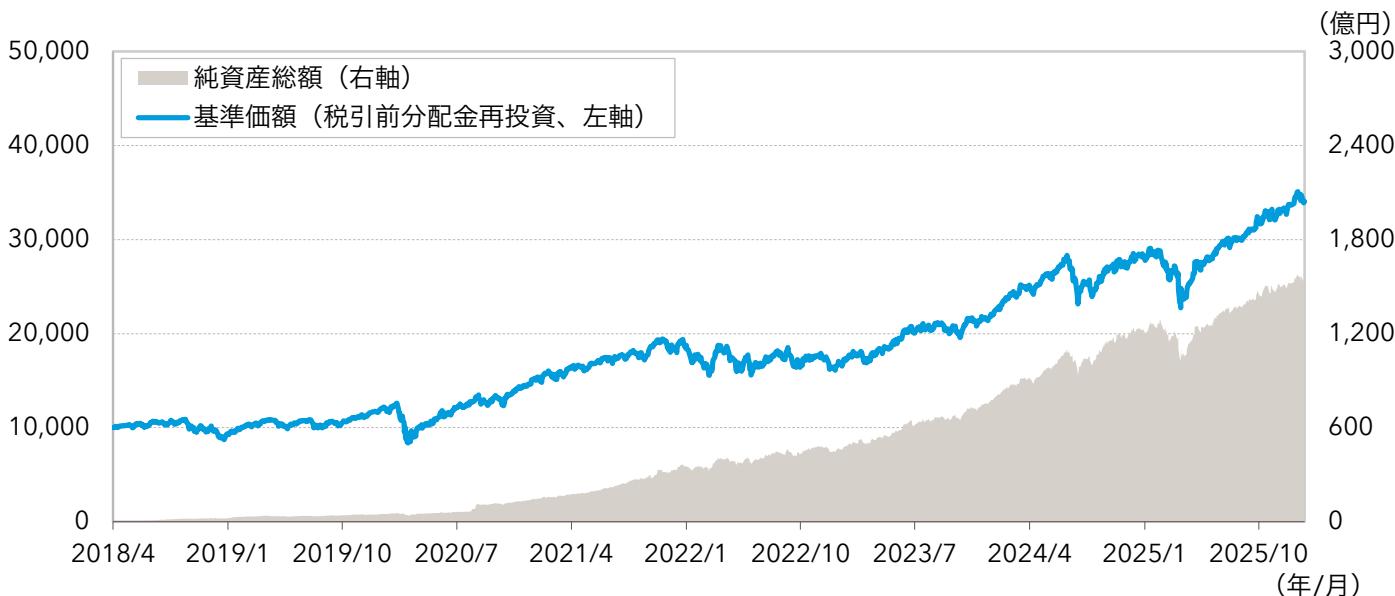
基準価額 (1万口当たり) 純資産総額
 34,039 円 1,538.1 億円

設定日：2018年4月13日

信託期間：無期限

決算日：毎年12月6日（休業日の場合は翌営業日）

設定来の運用実績および純資産の推移



期間収益率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.1%	3.5%	13.4%	18.7%	97.8%	240.4%

基準価額変動要因 (前月末比)

基準価額騰落額	+357 円
株式要因	+830 円
為替要因	-445 円
信託報酬等	-25 円
その他	-3 円

分配金推移 (1万口当たり、税引前)

決算期 (決算年月)	第5期 (2022年12月)	第6期 (2023年12月)	第7期 (2024年12月)	第8期 (2025年12月)	設定来 累計
分配金	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

資産構成比率 (%)

キャピタル世界株式マザーファンド	99.9
ニューパースペクティブ・ファンド (クラスC)	99.8
日本短期債券ファンド	0.0
現金等	0.1
現金・未払い費用等	0.1
合計	100

※ 基準価額（税引前分配金再投資）は、税引前分配金を再投資したものとして算出しています。

※ 基準価額および基準価額（税引前分配金再投資）は、設定日を10,000として指数化しています。基準価額は、信託報酬控除後の値です。

※ 期間収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。また、期間収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

※ 分配金は、過去の実績であり将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部を戻しに相当する場合があります。購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

※ 基準価額変動要因は、当社が一定の条件に基づいて算出した概算値を参考として表示しています。

※ 資産構成比率は、純資産総額に対する比率です。現金・未払い費用等には、未払い項目が含まれるため、比率がマイナスになる場合があります。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。



キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

基準価額 (1万口当たり) 純資産総額

20,353 円

319.9 億円

設定日：2018年8月21日

信託期間：無期限

決算日：毎年12月6日（休業日の場合は翌営業日）

設定来の運用実績および純資産の推移



期間収益率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.0%	2.4%	8.2%	12.6%	49.0%	103.5%

基準価額変動要因 (前月末比)

基準価額騰落額	+396 円
株式要因	+492 円
為替要因	-78 円
信託報酬等	-15 円
その他	-3 円

分配金推移 (1万口当たり、税引前)

決算期 (決算年月)	第5期 (2022年12月)	第6期 (2023年12月)	第7期 (2024年12月)	第8期 (2025年12月)	設定来 累計
分配金	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円

資産構成比率 (%)

キャピタル世界株式マザーファンド (限定為替ヘッジ)	100.0
ニューパースペクティブ・ファンド (クラス Ch-JPY)	99.8
日本短期債券ファンド	0.0
現金等	0.2
現金・未払い費用等	0.0
合計	100

※ 基準価額（税引前分配金再投資）は、税引前分配金を再投資したものとして算出しています。

※ 基準価額および基準価額（税引前分配金再投資）は、設定日を10,000として指数化しています。基準価額は、信託報酬控除後の値です。

※ 期間収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。また、期間収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

※ 分配金は、過去の実績であり将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部が戻しに相当する場合があります。購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

※ 基準価額変動要因は、当社が一定の条件に基づいて算出した概算値を参考として表示しています。

※ 資産構成比率は、純資産総額に対する比率です。現金・未払い費用等には、未払い項目が含まれるため、比率がマイナスになる場合があります。

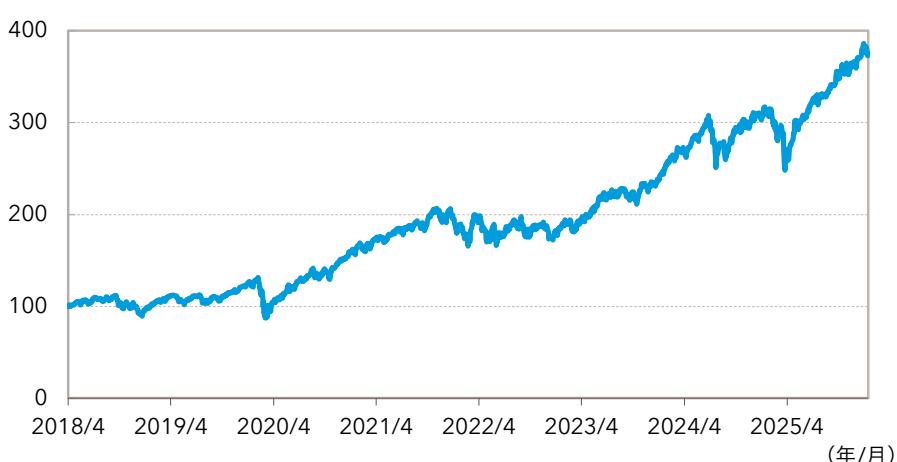
当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

世界株式N F の主要投資対象ファンド「ニューパースペクティブ・ファンド (クラスC)」の運用状況

運用実績 (円ベース)



期間収益率

期間	外国籍投信*1	参考指数*2
1ヶ月	1.1%	0.9%
3ヶ月	3.7%	3.8%
6ヶ月	13.9%	16.0%
1年	19.8%	21.0%
3年	103.1%	100.4%
投資開始来	274.5%	233.4%

*1 ニューパースペクティブ・ファンド(クラスC)
投資開始来：2018年4月13日

*2 MSCI ACワールド・インデックス
(税引後配当再投資、円ベース)

当ファンドはベンチマークを設定しておりません。
出所：MSCI、LSEG

- ※ 運用実績および期間収益率は、キャピタル世界株式ファンドN Fが実質投資するニューパースペクティブ・ファンド(クラスC)の数値を掲載しています。
- ※ 運用実績は、主要投資対象ファンドの組み入れを開始した2018年4月13日を100として指数化しています。同指正值は、税引前分配金を再投資したものとして算出しています。
- ※ 期間収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。また、期間収益率は実際の投資家利回りとは異なります。
- ※ MSCI指数は、MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

世界株式N F(限定為替ヘッジ)の主要投資対象ファンド「ニューパースペクティブ・ファンド(クラスCh-JPY)」の運用状況

運用実績 (円ベース)



期間収益率

期間	外国籍投信*3	参考指数*4
1ヶ月	2.1%	2.1%
3ヶ月	2.6%	3.1%
6ヶ月	8.7%	10.6%
1年	13.6%	15.3%
3年	52.9%	48.7%
投資開始来	119.2%	92.1%

*3 ニューパースペクティブ・ファンド(クラスCh-JPY)
投資開始来：2018年8月21日

*4 MSCI ACワールド・インデックス
(税引後配当再投資、円ヘッジベース)

当ファンドはベンチマークを設定しておりません。
出所：MSCI、LSEG

- ※ 運用実績および期間収益率は、キャピタル世界株式ファンドN F(限定為替ヘッジ)が実質投資するニューパースペクティブ・ファンド(クラスCh-JPY)の数値を掲載しています。
- ※ 運用実績は、主要投資対象ファンドの組み入れを開始した2018年8月21日を100として指数化しています。同指正值は、税引前分配金を再投資したものとして算出しています。
- ※ 期間収益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。また、期間収益率は実際の投資家利回りとは異なります。
- ※ MSCI指数は、MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

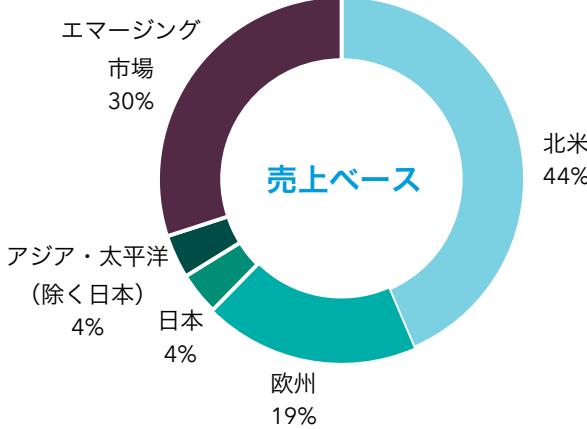
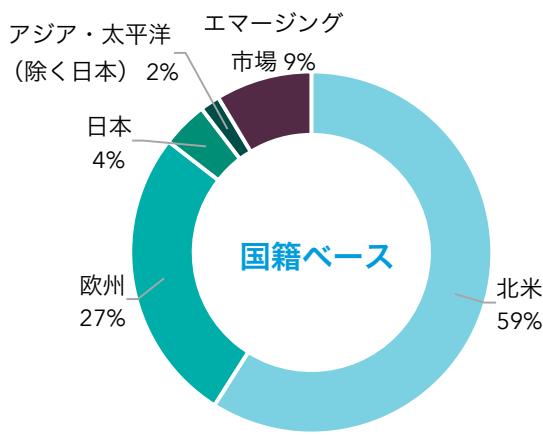
追加型投信・内外・株式

当ファンドの主要投資対象ファンド「キャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX)」の運用状況

国別構成比率		業種別構成比率		通貨別構成比率*1	
国名	比率	業種名	比率	通貨名	比率
1 米国	53.4%	1 情報技術	23.7%	1* 米ドル	58.3%
2 フランス	7.1%	2 資本財・サービス	14.7%	2* ユーロ	13.8%
3 英国	6.1%	3 一般消費財・サービス	12.6%	3* 英ポンド	6.0%
4 台湾	4.0%	4 金融	12.2%	4 台湾ドル	4.0%
5 日本	3.9%	5 ヘルスケア	11.8%	5 日本円	3.9%
6 カナダ	3.7%	6 コミュニケーション・サービス	10.2%	6* スイス・フラン	2.0%
7 オランダ	2.5%	7 生活必需品	5.3%	7 カナダ・ドル	1.8%
8 ドイツ	2.5%	8 素材	3.4%	8 デンマーク・クローネ	1.7%
9 スイス	2.0%	9 エネルギー	1.6%	9 香港ドル	1.6%
10 デンマーク	1.8%	10 公益事業	0.6%	10 韓国ウォン	1.5%
その他15カ国計	9.5%	11 不動産	0.4%	その他通貨	1.9%
現金・その他	3.5%	現金・その他	3.5%	現金・その他	3.5%
合計	100%	合計	100%	合計	100%

1 「キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)」は、原則として実質的な主要通貨建資産について主要通貨売り円買いの為替取引を行ない、対円での為替変動リスクの低減を図ります。基準日時点においては、順位に(アスタリスク)の付いた通貨が該当します。なお、現金・その他も主要通貨売り円買いの為替取引の対象に含まれます。現金・その他は、原則として主にキャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) の運用通貨である米ドルで構成されます。

地域別構成比*2 (除く現金等)



出所：MSCIのデータを基に当社で作成

*2・国籍ベースの地域別構成比は、投資先ファンドが組み入れている銘柄の主たる上場国（多くの場合は本社所在地）における時価総額を基準に構成比を示しています。一方、売上ベースの地域別構成比は、同組み入れ銘柄の地域別売上高を基準に構成比を算出しています。当社グループでは、運用資産の本質的なリスクを把握するためには、国籍ベースの地域別構成比だけでなく、実質的にどこの国や地域の経済活動や為替変動などから影響を受けているかを可能な限り正確に把握することが重要だと考えています。企業の売上高を基準にした地域別構成比は、こうした分析にもっとも適した指標のひとつであると考えています。
・MSCI指数の国籍・売上ベースのデータは、MSCI Inc.が算出したものを使用しています。同データに関する著作権、その他知的財産権はMSCI Inc.に帰属します。

※ 当ページは、当ファンドが実質的に投資する各クラスのもととなるキャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) の運用状況です。
※ 国についてはMSCI分類、業種はGICS (世界産業分類基準)に基づいていますが、当社の判断に基づき分類したものが含まれる場合があります。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

当ファンドの主要投資対象ファンド「キャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX)」の運用状況

組入上位10銘柄 (組入銘柄数： 263)

	銘柄名	国名	業種名	比率	概要
1	メタ・プラットフォームズ	米国	コミュニケーション・サービス	4.3%	ソーシャル・ネットワーキング・サービスを展開。広告の最適化を図るためAIへの投資を拡大。
2	台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング	台湾	情報技術	4.0%	半導体受託製造企業。最先端の技術を有し、半導体の小型・軽量化、高機能化に貢献。
3	プロードコム	米国	情報技術	3.1%	通信インフラ向け半導体、ソフトウェアを開発。成長性や収益性の高いネットワーク、ブロードバンド、ストレージ向け半導体に注力。
4	マイクロソフト	米国	情報技術	3.0%	テクノロジー企業。ビジネス向けソフトウェアやクラウド・サービスなどを提供。
5	エヌビディア	米国	情報技術	2.8%	半導体メーカー。高性能GPU(画像処理半導体)を中心にAI・データセンター向けに注力。
6	アルファベット	米国	コミュニケーション・サービス	2.7%	検索サイトを運営。検索や動画配信サイトによる広告事業に加え、クラウド・AI研究開発に注力。
7	テスラ	米国	一般消費財・サービス	2.6%	電気自動車メーカー。太陽光発電、蓄電池などクリーンエネルギー関連機器の製造・販売も手掛ける。
8	ASMLホールディング	オランダ	情報技術	1.8%	半導体製造装置メーカー。最先端の半導体の開発に不可欠な露光装置を製造・販売。
9	アストラゼネカ	英国	ヘルスケア	1.5%	製薬会社。循環器疾患、呼吸器疾患、がん領域の分野に強み。
10	イーライリリー	米国	ヘルスケア	1.5%	製薬会社。糖尿病や肥満、がん、自己免疫疾患などの治療薬を製造・販売。

※ 当ページは、当ファンドが実質的に投資する各クラスのもとになるキャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) の運用状況です。

※ 国についてはMSCI分類、業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいていますが、当社の判断に基づき分類したものが含まれる場合があります。

運用状況と今後の方針

<市況>

2026年1月の世界の株式市場*は上昇しました。前半は米国のベネズエラ軍事介入の影響を受けて防衛や石油関連銘柄を中心に株価が上昇しました。後半は米大統領によるグリーンランド購入発言を契機に米欧間の緊張が高まり、一時下落しました。その後は米欧対立への懸念が後退するに伴って反発し、月間では上昇を維持しました。セクター別では、素材やエネルギーなどが上昇した一方、ヘルスケアや金融などは下落しました。

* MSCI AC Worldインデックス（現地通貨ベース、税引後配当再投資）

<運用概況および今後の見通し>

当ファンドが主要投資対象とするキャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) の当月のリターン（現地通貨ベース）はプラスとなりました。セクター別では、資本財・サービスや情報技術などがプラスに寄与した一方、ヘルスケアや一般消費財・サービスなどはマイナスに寄与しました。

個別銘柄では、オランダの半導体製造装置メーカーASML Holding（情報技術）、台湾の半導体受託製造Taiwan Semiconductor Manufacturing (TSMC、情報技術) の保有などがプラスに寄与しました。ASML Holdingは高機能・小容積半導体の製造に不可欠な半導体製造用露光装置において、最先端の開発力を有しています。AI向け半導体の需要が拡大する一方で、メモリ半導体は供給不足により価格が高騰しており、主要半導体メーカーが相次いで生産能力を拡大しています。こうした動きを受けて、同社がその恩恵を長期にわたって享受するとの見方が広がり、株価は上昇しました。

一方、カナダのネット通販プラットフォームShopify（情報技術）、米国の電気自動車メーカーTesla（一般消費財・サービス）の保有などはマイナスに寄与しました。Shopifyは支払いや在庫の管理を可能とする電子商取引プラットフォームを小売業者向けに提供しています。AI統合の強化といった同社に固有の好材料はあったものの、米中摩擦や米欧対立などマクロ経済のリスクへの警戒感が高まるなかで、前年の急上昇の反動で利益確定売りが優勢となり、同社の株価は下落しました。

世界経済は米国の利下げや欧州の拡張的な財政政策、一部の新興国の高成長にも支えられ、底堅い動きが想定されます。株式市場では主要先進国で上振れ傾向にあるインフレ率の動向が注目されます。

市場のリスク要因として、インフレの再燃とその影響を受けた各国の政権運営の不安定化、米国のAI投資の持続性、中東・ウクライナ情勢や米中対立といった地政学的な緊張が挙げられます。こうした見通しのなか、高度な技術や優れたビジネスモデルなどによる高い競争力や外部環境に影響されにくい独自の成長要因を有する企業に注目しています。今後の運用においても、世界各国の経済および市場動向を注視しながら、長期的な視点に立った企業調査に基づく個別銘柄選択を継続していく方針です。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

ファンドの特色

マザーファンドへの投資を通じて、内外の投資信託証券（以下「投資対象ファンド」といいます。）に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長を目指します。

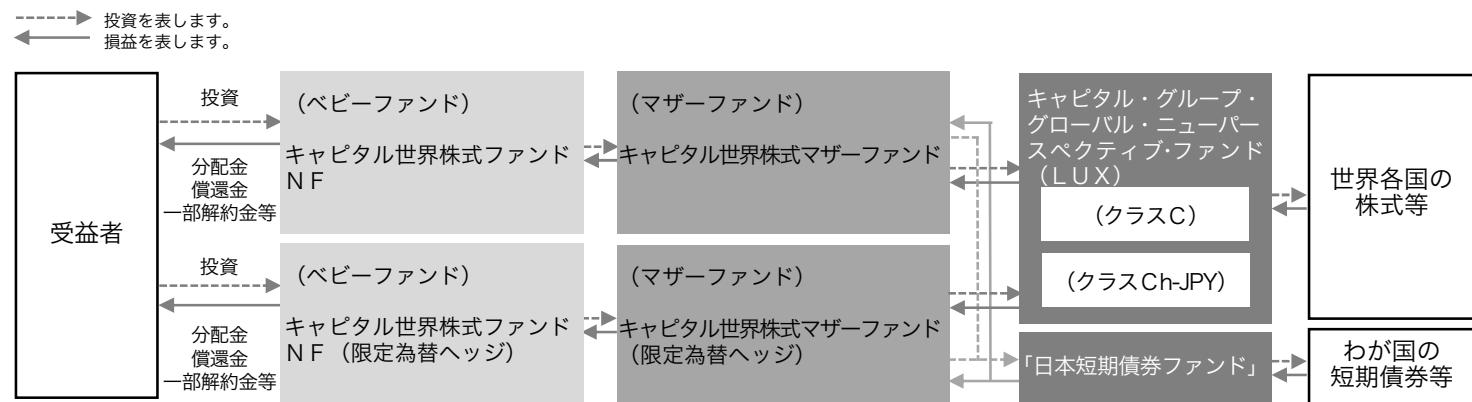
● 投資対象ファンド

キャピタル世界株式 ファンドN F	ルクセンブルク籍円建外国投資信託証券「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスC）*1」… 新興国を含む世界各国の株式等に投資を行ないます。 追加型証券投資信託「日本短期債券ファンド」… わが国の短期債券等に投資を行ないます。 ※ 実質投資割合は、「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスC）」を高位に維持することを基本とします。
キャピタル世界株式 ファンドN F (限定為替ヘッジ)	ルクセンブルク籍円建外国投資信託証券「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスCh-JPY）*1」… 新興国を含む世界各国の株式等に投資を行ないます。 追加型証券投資信託「日本短期債券ファンド」… わが国の短期債券等に投資を行ないます。 ※ 実質投資割合は、「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスCh-JPY）」を高位に維持することを基本とします。

※ 実質的な投資対象ファンドの概要は、投資信託説明書（交付目論見書）の「5. 追加的記載事項」をご覧ください。

*1 2023年11月24日より「キャピタル・グループ・ニューパースペクティブ・ファンド(LUX)」から「キャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド(LUX)」へ変更されました。当該主要投資対象ファンドの変更は、同一の運用を維持するためのもので、ファンド変更およびこれに伴うファンド名称の変更の他に特段の変更是ございません。

● 投資形態 ファンド・オブ・ファンズ



● 限定為替ヘッジの有無

キャピタル世界株式
ファンドN F 実質的に対円での為替ヘッジを目的とした為替取引を行なわないため、為替変動による影響を受けます。

キャピタル世界株式
ファンドN F
(限定為替ヘッジ) 原則として実質的な主要通貨建資産については主要通貨売り円買いの為替取引を行ない、対円での為替変動リスクの低減を図ります。主要通貨建以外の資産については為替取引を行なわないため、為替変動の影響を受けます。

ルクセンブルク籍円建外国投資信託証券の運用の特色は以下のとおりです。

- 世界各国の株式を主要投資対象とします。主として世界各国の証券取引所等で取引されている株式に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長を目指します。
- キャピタル・グループのグローバルな調査力・運用力を活用します。
- 複数のポートフォリオ・マネジャーが運用に携わることによって、投資対象やアイデアの分散を図り、安定的かつ継続的に運用成果の獲得を目指します。
- 「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスC）」は、原則として対円での為替ヘッジを目的とした為替取引を行ないません。「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスCh-JPY）」は、原則として主要通貨売り円買いの為替取引を行ない、対円での為替変動リスクの低減を図ります。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて内外の投資信託証券に投資を行ない、値動きのある有価証券等に投資します。このため、当ファンドの基準価額は、実質的な組入有価証券等の値動き等により変動しますので、当該組入有価証券等の価格の下落や、組入有価証券等の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。従って、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。当ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因は、次の各リスクに限定されるものではありません。

● 価格変動リスク

当ファンドが実質的に投資を行なう株式等の価格は、政治・経済・社会情勢、株式等の発行企業の業績や信用度、市場の需給関係等を反映して変動します。当ファンドが実質的に投資している株式等の価格が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落し投資元本を割り込むことがあります。

● 為替変動リスク

「世界株式N F」が実質的に投資する「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスC）」は、原則として対円での為替ヘッジを目的とした為替取引を行なわないため、為替変動リスクがあります。従って、当該外貨の円に対する為替相場の変動の影響を受け、損失を被る場合があります。為替相場の変動が円高に推移した場合は、基準価額の下落要因となります。

「世界株式N F（限定為替ヘッジ）」が実質的に投資する「ニューパースペクティブ・ファンド（クラスCh-JPY）」は、原則として実質的な主要通貨建資産に主要通貨売り円買いの為替取引を行ない、対円での為替ヘッジを行ないます。従って、主要通貨建資産に該当しない部分については、為替ヘッジを行なわないために為替変動の影響を直接受けます。なお、為替取引を行なうにあたり取引コスト（「取引コスト」とは、為替取引を行なう通貨の金利と円の金利の差に相当し、円の金利の方が低い場合この金利差相当分収益が低下します。）がかかります。また、為替ヘッジを行なうことによって、為替変動の影響が完全に排除できるとは限りません。新興国通貨の為替相場は短期間に大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。これら為替変動の影響は、基準価額の下落要因となり、投資元本を割り込むことがあります。

● 金利変動リスク

当ファンドが実質的に投資を行なう株式等の価格は市場金利の変動により変動することがあり、これに伴い基準価額が下落することがあります。

● 信用リスク

株式等の発行体が経営不安、倒産、債務不履行となるおそれがある場合、または実際に債務不履行となった場合等には、当ファンドは実質的に保有する有価証券等の価格変動によって重大な損失を被ることがあります。

● 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行なうことができない場合には、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となり、基準価額の下落要因となることがあります。

● カントリーリスク

投資対象としている国や地域において、政治・経済・社会情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合等には、予想外に基準価額が下落したり、運用方針に沿った運用が困難となったりする場合があります。特に新興国や地域では、政情に起因する諸問題が有価証券や通貨に及ぼす影響が先進国と比較して大きくなることがあります。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 当ファンドは、主要投資対象とするマザーファンド(マザーファンドの投資対象ファンドを含む。)が有するリスクを間接的に受けることになります。
- 投資者の当ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 当ファンドを購入になれるのは、販売会社にSMA(セパレートリー・マネージド・アカウント)取引口座を開設する等の一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬) 信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対して年率0.825%(税抜0.75%)の信託報酬率を乗じて得た額とします。信託報酬は、日々計上され、当ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヶ月の終了日および毎計算期末または信託終了のときに当ファンドから支払われ、その支払先への配分等は下記のとおりです。

信託報酬の支払先への配分および役務の内容、ならびに実質的な負担

信託報酬	年率0.825%(税抜0.75%)
------	-------------------

委託会社	年率0.70%(税抜)	委託した資金の運用等の対価として
------	-------------	------------------

販売会社	年率0.03%(税抜)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価として
------	-------------	----------------------------------------------

受託会社	年率0.02%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価として
------	-------------	-----------------------------

投資対象とする外国投資信託 ^{*1} の信託報酬	年率0.00%
-----------------------------------	---------

投資対象とする国内投資信託 ^{*2} の信託報酬	年率0.007%程度
-----------------------------------	------------

実質的な負担 ^{*3}	年率 <u>0.832%程度(税込)</u>
----------------------	------------------------

*1 「ニューパースペクティブ・ファンド（クラス C）/（クラス Ch-JPY）」の投資顧問会社への報酬は、委託会社が支払います。

このため、当該ファンドに信託報酬はかかりませんが、下記「その他の費用・手数料」に表示するファンド管理費用が別途かかります。なお、当該ファンド管理費用の総経費率は、交付目論見書の「（参考情報）ファンドの総経費率」に表示する「④投資先ファンドの運用管理費用以外」の比率でご覧いただけます。

*2 日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)は、年率0.143%(税抜0.13%)を上限とする信託報酬がかかりますが、当該ファンドの実質的な組入比率は低位を維持するため、受益者が実質的に負担する信託報酬の算出にあたっては、年率0.007%程度と見込み、当該年率を表示しております。

*3 当ファンドは他の投資信託証券を実質的な投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めて受益者が実質的に負担する信託報酬の概算を表示していますが、投資対象ファンドの実質組入比率は運用状況に応じて変動するため、受益者が実質的に負担する実際の信託報酬の率および上限額は事前に表示することができません。

その他の費用・手数料

投資者が信託財産で間接的に負担するその他の費用・手数料は下記のとおりですが、これらの費用等は運用状況等により変動するものであり、その全てについては事前に料率、上限額を表示することができません。

- 法定開示にかかる費用：年率0.05%以内(税込)

委託会社は下記イ、およびロ、に定める費用の支払いを信託財産のために行ない、支払金額を信託財産から受けることができます。この場合、委託会社はこれらの費用の合計額を予め合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず、固定率または固定金額にて信託財産から支払いを受けることができます。ただし、委託会社が受領できる下記イ、およびロ、に定める費用の合計額は日々の信託財産の純資産総額に年10,000分の5の率を乗じて得た額の合計額を超えないものとし、当該固定率または固定金額については、信託財産の規模等を考慮して、信託の期中に変更することができます。かかる費用の額は、計算期間を通じて毎日計上し、毎計算期間の最初の6ヶ月の終了日および毎計算期末または信託終了時に、当該費用にかかる消費税等相当額とともに信託財産からご負担いただきます。

イ. 信託財産に関する法定開示のための監査費用

ロ. 信託財産に関する法定開示のための法定書類(有価証券届出書、有価証券報告書、半期報告書、目論見書および運用報告書その他法令により必要とされる書類)の作成および印刷費用等

- 資産管理費用(カストディーフィー)：保管銀行との契約により適正な価格が計上されます。
- 資金の借入に伴う借入金の利息および有価証券の借入に伴う品借料：借入先との契約により適正な価格が計上されます。
- 受託会社による資金の立替に伴う利息：受託会社との交渉により適正な価格が計上されます。
- 有価証券等の売買委託手数料等：投資対象ファンドの運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を記載することができません。
- 投資対象とする外国投資信託のファンド管理費用：ファンド運用会社が、契約先との適正な価格設定により、当該ファンドから適切な費用の支払いを受けます。

※法定開示にかかる費用は毎計算期間の最初の6ヶ月の終了日および毎計算期末または信託終了のときに当ファンドから支払われます。
これら以外のその他の費用・手数料等は、そのつど信託財産から支払われます。

※上記の費用の合計額については、ファンドの保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

当資料の最終ページに記載した「当資料のご利用にあたっての注意事項」をお読みください。

キャピタル世界株式ファンドN F / キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)

追加型投信・内外・株式

ファンドの名称について

ファンドの名称は表に記載の略称等であります。

正式名称	略称
キャピタル世界株式ファンドN F	「世界株式N F」
キャピタル世界株式ファンドN F (限定為替ヘッジ)	「世界株式N F (限定為替ヘッジ)」

※ 上記ファンドを総称して「キャピタル世界株式ファンドN F/N F (限定為替ヘッジ)」、「ファンド」または「当ファンド」ということがあります。また、各ファンドを「ファンド」または「当ファンド」といいます。

正式名称

キャピタル世界株式マザーファンド

キャピタル世界株式マザーファンド (限定為替ヘッジ)

※ 上記ファンドを総称して、または各マザーファンドを「マザーファンド」といいます。

正式名称	略称
キャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) (クラスC)	「ニューパースペクティブ・ファンド (クラス C)」
キャピタル・グループ・グローバル・ニューパースペクティブ・ファンド (LUX) (クラスCh-JPY)	「ニューパースペクティブ・ファンド (クラス Ch-JPY)」
※ 上記ファンド (クラス) を「ニューパースペクティブ・ファンド (クラスC) / (クラスCh-JPY)」といいます。	

日本短期債券ファンド (適格機関投資家限定)

「日本短期債券ファンド」

ファンドの関係法人

委託会社	キャピタル・インターナショナル株式会社 商号/キャピタル・インターナショナル株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第317号 加入協会/一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 委託会社は、信託財産の運用指図、受益権の発行、目論見書および運用報告書の作成等を行ないます。
販売会社	野村證券株式会社 商号/野村證券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号 加入協会/日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 販売会社は、当ファンドの募集の取扱い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行ないます。
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 受託会社は、信託財産の保管・管理等を行ないます。

当資料のご利用にあたっての注意事項

当資料は当ファンドの商品説明用資料として当社が作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。ファンドの取得のお申込みを行なう場合には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、お客様自身でご判断ください。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成していますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等は過去のものであり、将来の市場環境・運用成果等を示唆または保証するものではありません。当資料に記載された市況や運用に関するコメント等の内容は作成日現在の当社見解であり将来の動向や結果を保証するものではなく、また将来事前の予告なく変更されることがあります。投資信託は値動きのある有価証券等(外国証券には為替リスクもあります。)に投資しますのでその値動きに伴い基準価額が変動します。従って投資元本および運用成果が保証されているものではなく、また投資信託財産に生じた損益は全て投資家の皆様に帰属します。投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金の対象にはなりません。当資料中では四捨五入で処理した数値を用いる場合がありますので、誤差が生じることがあります。